

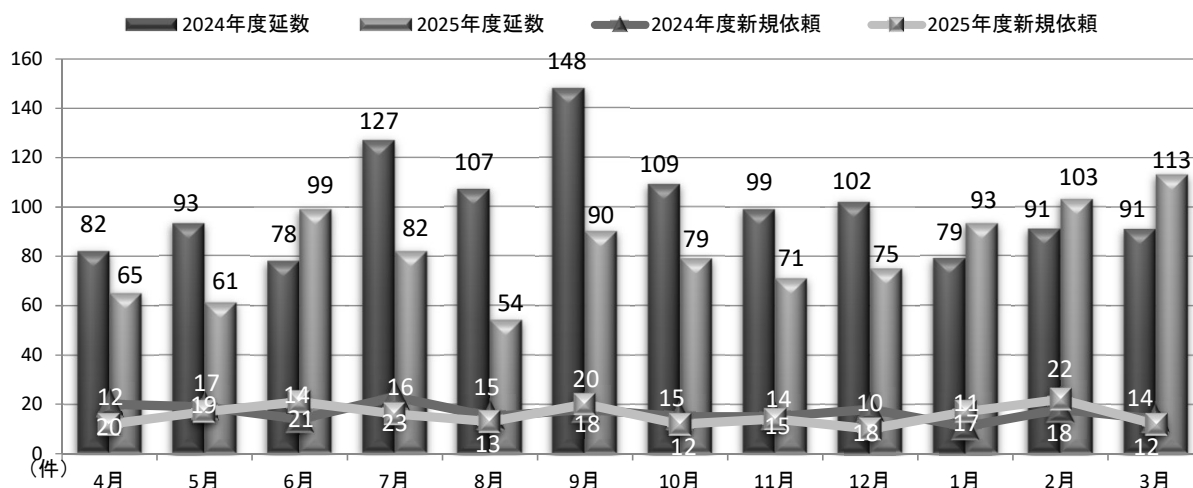
VIII. 精神科リエゾンチーム



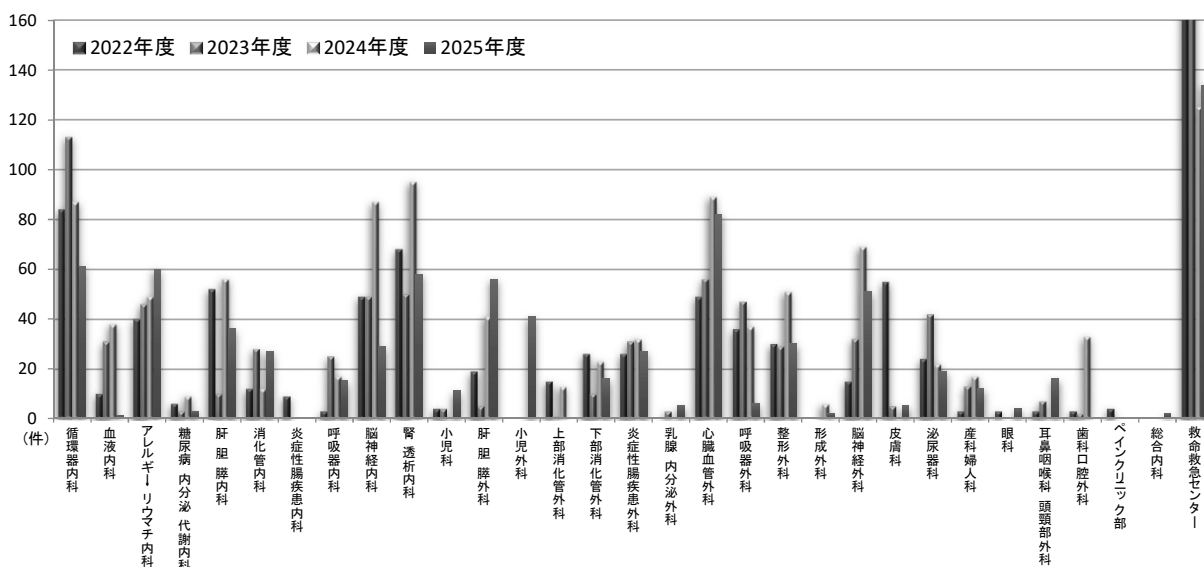
救急病棟や内科病棟に入院する症例の中には、精神的な問題を生じる割合が少なくない。精神科リエゾン医学はそのような一般病棟での精神的な問題に対応するために発展してきた「身体とところをつなぐ医学」である。精神科リエゾンチームは、この精神科リエゾン医学の考え方を基に、多職種が連携し、身体とところのつながりに焦点をあてた医療や支援を目指し、2012年10月から活動を始めた。2025年度の実施延件数、新規依頼件数および診療科別の推移は以下の通りである。

2025年度における件数をみると、前年度に比べ、新規依頼件数はほぼ変わらないが、延べ介入件数は減少している。これは入院日数の短縮を表していると考えられるが、未だ介入件数は多く、精神科リエゾンのニーズは高いと考えられる。介入した科、疾患は多岐にわたっており、さまざまな身体疾患において、精神的なフォローの重要性がうかがえる。中でも救命救急センターからの依頼件数は新規、延人数とも最大である。これには、救命救急センターにおける継続的な精神科リエゾンチームのかかわりが必要、かつ重度の症例が多いことが考えられる。さらに2022年10月より、自殺企図など精神状態の不安定さから衝動的な行為に至り、により救急搬送された患者さんへのサポート体制の立ち上げ、2025年度52人に介入を行った（前年47人）。しかし精神科リエゾンのニーズは高まっているが、マンパワーが少なく、十分な対応が困難であるという現状が存在する。2026年度も各科との連携を高め、ニーズに応えられるよう努力をしていきたいと考えている。

VIII-1 年度別月別精神科リエゾンチーム実施延件数（2024年度合計1,206件、2025年度合計985件）と新規依頼件数



VIII-2 精神科リエゾンチーム診療科別実施延件数の年度別推移（2022年度合計1,214件、2023年度合計1,087件、2024年度合計1,206件、2025年度合計985件）



Ⅷ-3 年度別精神科リエゾンチーム診療科別実施延件数

(件)

区 分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2025年度 構成比率 (%)
循環器内科	65	84	113	87	61	6.2
血液内科	1	10	31	38	1	0.1
アレルギー・リウマチ内科	11	40	46	49	60	6.1
糖尿病・内分泌・代謝内科	1	6	3	9	3	0.3
肝・胆・膵内科	14	52	10	56	36	3.7
消化管内科	24	12	28	12	27	2.7
炎症性腸疾患内科	3	9	-	-	-	-
呼吸器内科	12	3	25	17	15	1.5
脳神経内科	10	49	49	87	29	2.9
腎・透析内科	42	68	50	95	58	5.9
小児科	3	4	4		11	1.1
肝・胆・膵外科	17	19	5	41	56	5.7
小児外科					41	4.2
上部消化管外科	5	15	1	13		-
下部消化管外科	12	26	10	23	16	1.6
炎症性腸疾患外科	22	26	31	32	27	2.7
乳腺・内分泌外科	1		3		5	0.5
心臓血管外科	24	49	56	89	82	8.3
呼吸器外科	31	36	47	37	6	0.6
整形外科	27	30	29	51	30	3.0
形成外科	6			6	2	0.2
脳神経外科	31	15	32	69	51	5.2
皮膚科	11	55	5		5	0.5
泌尿器科	15	24	42	22	19	1.9
産科婦人科	2	3	13	17	12	1.2
眼科	1	3			4	0.4
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	3	3	7		16	1.6
歯科口腔外科	6	3	2	33		-
ペインクリニック部		4				-
総合内科					2	0.2
救命救急センター	279	322	263	125	134	13.6
小計	679	970	905	1,008	809	82.1
精神科神経科	267	244	182	198	176	17.9
合計	946	1,214	1,087	1,206	985	100.0